

テーマ「DVD “One Shot One Kill”を観る」

★DVD について

- ・ One Shot One Kill とは「一撃必殺」という意味である。
- ・ 影山あさ子プロデューサー

沖縄から、海兵隊が、イラクやアフガニスタンへ送られる。ファルージャ攻撃にも遠征軍 2200 人が、沖縄から出撃した。イラク人 7000 人が犠牲になり、50 人の海兵隊員が戦死した。【中略】沖縄で見かける海兵隊員たちは、とても若い。高校を卒業したばかりだろうか。凄惨な職場とは、あまりに不釣り合いな幼顔をしている。彼らはどこから来た、だれなのだろう。何故、ここにいるのだろうか。彼らの幼い顔を見つめながら、アメリカへ行こうと決めた。

パリスアイランド（サウスカロライナ州）のブートキャンプ（新兵訓練所）には毎週 500 人の若者たちがやってくる。彼らは特別な若者ではない。「大学に進学したい」「良い仕事に就きたい」「社会に貢献したい」と軍隊に志願するごく普通の、そして大多数は貧しいアメリカの若者たちだ。深夜にバスで到着するや否や、教官たちに怒鳴り散らされながら 12 週間の訓練に突入していく。深夜に到着するには訳がある。疲れさせるためだ。到着後、48 時間眠ることが許されない。「疲労と衝撃が、民間人から兵士への変容を容易にする」と教官たちは言う。【後略】（映画案内広告より）

★ DVD を観ての感想

- ・ 最近、一杯飲みながら「今の若者を見ると徴兵制をしいてもらわんといかん」という話が出た。こういう世間の声にどう応えていくか。私は帰還兵の自殺や後遺症の実態を話したのだが。
- ・ この訓練の様子を見て若者は「ひどい」と思うか「かっこいい」と思うのか？
- ・ もし東京でテロが起こったら世論はどうなるか？
- ・ 安倍政権は世論操作がうまい。よほど優秀なブレインがいる。なかなかこれを打ち破るのは難しい。ただシールズなど若者の動きに民主主義の芽はがあると希望はもてる。
- ・ このような訓練を公開するなんて・・・これはアメリカの民主主義？
- ・ 自衛隊も同じようなことをしている。事件にならない暴力は一杯あるだろう。
- ・ アメリカの学資ローンを日本でも取り入れようとしている。
- ・ 高校生自身にも自衛隊に入って鍛えたいという感覚がある。
- ・ 今のように情報量が多い中で、多くの人が歴史に対して傍観者になっている。これは現政権を肯定することになる。
- ・ 最近 face book を始めた。「face book 9条の会」もある。

時間切れで話しは終わりましたが、「この映画を広めて海兵隊の実態を知らせたい。」
「多くの人に観てもらいたいね」という結論でお開きとなりました。